

# 二人三脚で 追いかけた夢

第18回冬季デフリンピック  
アルペンスノーボード日本代表

星 雄一さん  
奈々さん



星 雄一（ほし・ゆういち）  
1968 年生まれ、郡山市出身

星 奈々（ほし・なな）  
1980 年生まれ、南会津町出身

念願だった夫婦でのデフリンピック出場

3月28日から4月5日までの9日間、ロシアのハンティマンシークスなどで開かれた第18回冬季デフリンピックのアルペンスノーボードに本町の星雄一さん、奈々さん夫婦が出場しました。

大会前、星さん夫婦に心境をたずねると「夫婦揃ってデフリンピックに出場するのが夢だったので、決まった時は

言葉にならないほどうれしかった。目標は夫婦でメダルを取る」と話しました。

猪苗代に住むきっかけ

雄一さんは郡山市、奈々さんは南会津町の出身で、2人は2013（平成25）年に結婚。雄一さんの職場が郡山市、奈々さんの職場が会津若松市にあることから、その中間の本町で暮らしています。スノーボードをする2人にとっては、スキー場が近くにあることも魅力でした。「猪苗代は、実家がある（南会津町）館岩に環境が似ているので、とても落ち着く」と奈々さんは話します。

デフリンピックとは

デフリンピックは、4年に1度開かれる、ろう者のオリンピックともいえる国際的なスポーツ大会で、夏季大会と冬季大会が開かれます。妻の奈々さんはデフリンピック初出場。夫の雄一さんは2度目の出場、前回出場した2003（平成15）年の冬季デフリンピック・ス

ウェーデン大会では4位に入る活躍を見せました。

今回のデフリンピックでは、共にパラレル大回転とパラレル回転の2種目に出場。

パラレル種目は、並行して設定されたコースを2人が同時に滑走するもの。予選を2本滑り、男子は上位16位、女子は上位8位が決勝トーナメントに進出。決勝トーナメントでは2人が同時に滑走し、先にゴールした者が勝ち抜けていく競技です。

2種目で夫婦揃っての入賞

3月30日に行われたパラレル大回転競技では、雄一さんが7位、奈々さんが4位と共に入賞。4月3日のパラレル回転競技でも、雄一さんが8位、奈々さんが6位と揃って入賞を果たしました。

競技終了後、「目標のメダルは逃したけれども、夫婦揃って入賞することができてよかった。応援ありがとうございまして」と現地から連絡をくれた奈々さん。

今回の冬季デフリンピックをもって、日本ろう者スキー協会アルペンスノーボード

チームを引退するという雄一さんは「2回目の出場で、最高に良い思い出になった」と話しました。

奈々さんは「4年後のデフリンピックを目指すかどうかは、日本に帰ってからゆっくり考えたい」としながらも、「今後も夫と共にトレーニングしながら、国内でいろいろな大会に参加して、今まで以上に良い成績を残せるように頑張っていきたい」と抱負を聞かせてくれました。



4位入賞を果たしたパラレル大回転での奈々さんの滑り

※競技写真は日本ろうあ連盟 facebook から引用したものです。